

【NEWS LETTER】

根津育英会武蔵学園による武蔵大学通信2016

“ゼミの武蔵” 便り

INDEX

- 人文学部・社会学部でグローバルに特化した新コースを設置！
- グローバル教育の推進に合わせた新入試制度を開始！
- 「ゼミの武蔵」ーグローバル教育の取り組み
- 「ゼミの武蔵」ー学生の発表の場

【面倒見が良い大学】

全国3位 (全国私大2位/首都圏1位)

【小規模だが評価できる大学】

全国3位 (全国私大2位/首都圏2位)

【入学後に生徒を伸ばしてくれる大学】

全国9位 (全国私大4位/首都圏4位)

『サンデー毎日』2016.9.18号掲載/大学通信調べ

本学は、前身の旧制武蔵高等学校から続く90年以上の歴史のなかで「世界に雄飛するにたえる人物」を建学の理想の一つに掲げ、ゼミを中心とした少人数教育を行ってきました。武蔵大学の教育は、「自ら調べ自ら考える」力を持ち、「心を開いて対話」し、「世界に思いをめぐらし、身近な場所で実践」できるグローバル市民の育成を目標としています。グローバルリーダーの育成に向けて、2015年度から「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム (PDP)」を経済学部で開始。さらに、2017年度から人文学部では「グローバル・スタディーズコース (GSC)」を、社会学部でも「グローバル・データサイエンス (GDS) コース」を設けて、さらなるグローバル市民の育成をめざします。

武蔵大学 学長 山寺哲哉

人文学部・社会学部でグローバルに特化した新コースを設置！

入学定員
49名増員

◆今、求められるグローバル人材を育成する「グローバル・スタディーズコース」(GSC)

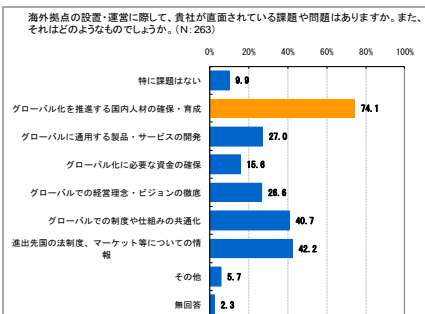
日本企業が海外展開する際の課題として、グローバル化を推進する人材の不足を一番に挙げています。本学ではグローバル教育推進の取り組みとして2017年度、人文学部に「グローバル・スタディーズコース (GSC)」を新設します。GSCは、個別指導 (コーチング) などを用い、グローバル市民として能動的に活躍できる人材を育成する特訓コースです。英語プログラムをはじめ、留学の支援を目的としたドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語のプログラムがあります。

《プログラム例：英語プログラム》

留学先での学習に対応できるよう、英語による授業の修得単位が全体の約7割を超えることが卒業要件として求められます。英語で行う本学の授業と海外留学による単位認定だけで卒業単位を満たすこともできます。

《コースのPoint》

- 高い目標を定めた語学力強化のためのカリキュラム
- 6か月または1年間の留学の推奨
- 外国語学習サポートを目的とした個別指導 (コーチング) の提供



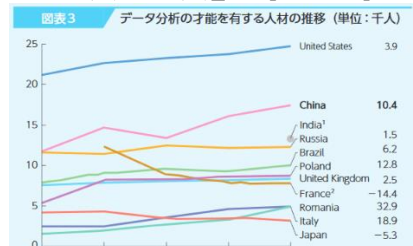
▲企業のグローバル人材へのニーズとその過不足
出典：「グローバル人材育成に関するアンケート調査」(経済産業省・2010年3月(実施))
<http://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2012/2012honbun/ht/ml/4250000.html>

◆データサイエンス・スキルと語学力を磨く「グローバル・データサイエンスコース」(GDS)

次世代を担うグローバルな視野とデータサイエンス・スキルを備えた人材を育てるため、2017年度から社会学部に「グローバル・データサイエンスコース」(GDS)を新設します。GDSは、社会を科学的に見る方法としてデータを分析し、意味ある知見を引き出し、それを意思決定などに活用する、いわば次世代の情報リテラシーともいべき能力としての「データサイエンス・スキル」と、「英語」の双方を4年間で身につけていく取り組みです。

《目標とコースのPoint》

- 国際化に対応した英語に代表される**語学力**
外国語現地実習などの、豊富な語学の学びで培います
- 説得力あるエビデンスを作り出す**データマイニング能力**
さまざまな社会調査・分析のための方法科目が準備されています
- 社会課題を解決する上で必要な、**対話力、共感力、調整力**
1年次から4年次まで、ゼミの武蔵ならではの豊富なゼミで鍛えます
- 学びを実社会で活かすための、**実行力、表現力**
海外での職業体験や、学外での卒業活動など社会そのものがフィールドです



▲日本でのデータ分析の才能を有する専門的人材は減少傾向にある
出典：総務省ウエブサイト
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h26/html/nc134020.html>

グローバル教育の推進に合わせた新入試制度を開始！

◆PDPの履修を確約する特別選抜入試「PDPパスポート型」(試験日2016/10/2)

「ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラム (PDP)」は、日本にいながらロンドン大学の学位も取得できるプログラムで、日本初の取り組みです。経済学部の学生が対象で、語学の成績などで約30名を選抜。各年次で成績基準を満たした上で、ロンドン大学のIFP (基礎教育プログラム)・IP (国際プログラム) を学びすべての試験に合格すれば、ロンドン大学経済経営学士号が取得できます。

《PDPのPoint》

- ◆日本にいながら2つの学位が取得できる
- ◆ノーベル賞受賞者を7名輩出した世界水準の授業が受けられる
- ◆武蔵大学のゼミも4年間履修できる



《特別選抜入試「PDPパスポート型」とは》

通常、PDPの履修は、4月の入学時に選抜を行っていますが、特別選抜入試【PDPパスポート型】による入学者は入学時の選抜なく履修を確約します。

▼以下のいずれかを満たせば出願が可能

1. TOEFL® iBT 62点以上
2. IELTS オーバーオール・バンド・スコア5.0以上
3. TOEIC® 及び TOEIC® S&W 994点以上
4. 実用英語技能検定準1級以上
5. TEAP(4技能) 298点以上

◆英語4技能の外部検定試験を活用した入試「全学部統一グローバル型」(試験日2017/2/2)

2017年度入試より英語4技能資格・検定試験 (聞く、読む、話す、書く) *を活用した入試方式「全学部統一グローバル型」を導入します。これは、文部科学省の2015年3月31日付「英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進について (通知)」等や学習指導要領に対応した高大接続に向けた取り組みです。

*指定する英語資格・検定試験 (4技能) :
実用英語技能検定 / IELTS™ / TEAP / TOEFL® iBT / TOEIC® / TOEIC® S&W / GTEC CBT (人文・社会学部のみ)



《一般方式「全学部統一グローバル型」とは》

各学部学科が指定する英語資格・検定試験 (4技能) *の基準を満たした上で、英語以外の1科目 (2科目受験した場合は高得点を使用) の得点を合否判定に使用します。

- ◆人文学部の合格者は、新コース：**グローバル・スタディー スコア (GSC)** に所属することが可能に
- ◆すべての学部学科に出願可能
- ◆解答はすべてマークシート

学内から海外まで「選べる」グローバル体験の場

学内留学

Musashi Communication Village (MCV)

さまざまな外国語を楽しみながら学べるMCVは、英語が公用語の「国際村」です。無料の少人数英会話レッスンのほか、外国語学習カウンセリング、常駐するネイティブ・スピーカーとのフリートークや異文化体験イベントなど、生きた外国語を身につけるチャンスが盛りだくさん。



East Asian Studies (EAS科目)

受入れ留学生を主な対象とした少人数制・英語による授業。東アジアの国際関係、経済、文化、社会などを総合的に学びます。英語で専門分野を学習したい、留学帰国後の英語力を保ちたい日本人学生も履修可能。

国内留学

テンプル大学ジャパンキャンパス (TUJ) との連携

2013年より開始したTUJとの単位互換プログラムにより、武蔵大学で学びながらアメリカの州立大学の授業を履修できます。授業は全て英語で行われ、追加の授業料は不要。1学期～1年間の国内留学も可能です。毎年、夏休み期間中には、武蔵大学のキャンパスでTUJの授業を5日間体験できる「English Summer School」も実施。



海外留学・研修

《長期》協定留学

アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリア・ドイツ・フランス・オランダ・韓国・中国・台湾にある協定校へ留学します。



《短期》外国語現地実習：夏休み期間中および2～3月に海外の協定校で実施される語学の集中授業です。

《短期》学生海外研修：知識の習得と国際的視野を広めることを目的とした研修制度です。夏休み期間中または2～3月に、自ら選んだ研修先とテーマに従い現地調査。帰国後は、報告書の提出と発表を行います。

《短期》グローバル・インターンシップ (GI) プログラム：2～3月にオーストラリアまたはニュージーランドで6週間のインターンシップを行う制度。語学力と異文化対応力を駆使しながら、海外での就業体験ができます。

各チームでプレゼンをくり広げ優勝をめざす！ゼミ大会



武蔵大学ゼミナール連合会が主催する「ゼミ対抗研究発表大会2016（以下、ゼミ大会）」が2016年12月に開催されます。ゼミ大会は、経済学部にも所属するゼミが「経済」「経営」「金融」「会計」などのブロックに分かれ、優勝を目指してプレゼンテーションを繰り広げる大会です。企画・運営は、学生団体の「ゼミナール連合会」が中心となって行います。発表後は、社会人審査員や教員からの講評を受け、内容と表現についての評価基準をもとに、公正に審査されます。

武蔵大学ゼミナール連合会：

1961（昭和36）年に発足した学生団体で、主にゼミ大会の企画・広報、協賛企業の募集、当日の運営を行っている。また、経済学部のゼミ紹介冊子を新入生向けに作成し、ゼミ活性化のために活動している。ゼミ大会は経済学部の大会にもかかわらず、人文学部、社会学部の学生もゼミ連に参加しており、多様な視点が入り入れられていることも団体の特徴。

ゼミで深めた学びの集大成！卒業論文発表会

2017年1月に、人文学部「卒業論文報告会」と社会学部卒業論文・卒業制作発表会「シャカリキフェスティバル」を開催します。

毎年来場者は、自らの卒業論文・卒業制作を控えた3年生を中心にどの会場も盛況で、発表後には質疑応答が飛び交い、たいへん熱気に満ちた会となります。昨年は、学校帰りの高校生の姿も見られました。



〈発表テーマ例〉

- ・ [英文エッセイ] International Marriage and Barriers—Looking through Language and Communication Problems（英語英米文化学科）
- ・ [論文] レオナルド・ダ・ヴィンチの機械像 ～解剖された自然～（ヨーロッパ文化学科）
- ・ [論文] 日本の舞台芸能にみる日本人の死生観について—能と歌舞伎の比較—（日本・東アジア文化学科）
- ・ [論文] 人気温泉地から見る観光まちづくり（社会学科）
- ・ [論文] 「応援うちわ」にみるジャニーズファン（メディア社会学科）
- ・ [ドキュメンタリー番組] 「日本一のコロッケ」では救えない（メディア社会学科） など

経済・人文・社会の3学部合同チームで企業のCSR報告書作成に挑む



2016年12月、「三学部横断型ゼミナール・プロジェクト（以下、三学部横断ゼミ）」後期の最終報告会が開催されます。この三学部横断ゼミは、経済、人文、社会の3学部の学生が一つのチームを作り、それぞれの学部の専門知識を活用しながら、企業から与えられた課題（CSR報告書の作成）に取り組むなかでチームワーク、リーダーシップなどを育成しています。

2015年の後期は62名が履修し、授業以外の時間にも毎日集まって議論を重ね、授業専用のSNSの中で企業の担当者より説明やアドバイスをいただきながら、課題に取り組みました。

報告会当日、学生たちは、チームで作成したCSR報告書を提示した上で、その報告書をどのようなプロセスを経て完成に至ったのか、そのプロセスでどのような気づきがあったのかをプレゼンテーションします。また、企業が抱えている問題を指摘し、その問題の解決策の提案を盛り込んで発表するチームもありました。

■ 武蔵大学〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕～都心に近く緑豊かなワンキャンパス～

東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり、政財界で活躍した根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正11）年に“武蔵大学”の前身である旧制七年制武蔵高等学校を創設。その後の学制改革により、1949（昭和24）年4月武蔵大学（経済学部経済学科）開設。現在は、経済学部（経済学科/経営学科/金融学科）、人文学部（英語英米文化学科/ヨーロッパ文化学科/日本・東アジア文化学科）、社会学部（社会学科/メディア社会学科）の3学部8学科からなる文系総合大学。学長 山崎哲哉